

機 巢

同窓会報メールマガジン

Vol. 7 秋号

岐阜工業高等専門学校 機械工学科

目 次

P-2	目次 & 会長挨拶	中野 廣幸 (4期生)
P-3	機械工学科の現状について	機械工学科 教授 山田 実 (24期生)
P-4	クラブ紹介 硬式野球部	機械工学科 教授 片峯 英次
P-5	若鮎会設立 50 周年 記念式典&懇親パーティーの報告	
	実行委員	太田 哲也 (6期生)
P-7	学年合同同窓会の開催するにあたって	堀口 英樹 (31期生)
P-8	企業トップとして活躍する卒業生	飯沼 義徳 (7期生)
P-10	若鮎会 50周年記念事業 公開講座のお知らせ	
P-11	若鮎会 公開講座 案内チラシ	
P-13	お知らせ & 編集後記	

会長挨拶

中野 廣幸

まずは若鮎会設立 50 周年記念行事にたくさんの皆さんに参加いただき、厚く感謝申し上げます。お陰様で成功裏に終了することができました。

50 周年記念行事では、皆さんの色々な分野での活躍を拝見いたしました。特に基調講演の女性として日本で初めてトンネル工事現場監督をされた所靖子さんが、現在も女性土木技術者の地位向上のために努力しておられるとお聞きし、誠に素晴らしいことだと感銘いたしました。

世間一般、どうも女性のほうが、元気が良いようです。今話題となっている“定年後（楠木新著）”という本を、最近読みました。その本によりますと、定年を迎えて、最も問題になるのは“孤独になること”で男性がこれに陥りやすいとのこと。一般的に会社人間である男性は、会社という組織の中で仕事を通じて仲間を作っています。その仲間と飲みに行ったり、ゴルフをしたり、時には議論になったり、時には「こんな会社辞めてやる」と思っても、定年を迎えてその組織を離れた時、その組織の中にいたことを有難く思い、自分には何も残っていないことに愕然とするものなのです。それに比べて女性は、自分自身のネットワークを作り上げることがうまく、その中で活躍するのです。

今組織の中で活躍している機楽会の特に男性会員の皆様、自分自身のネットワークは出来ていますか？これはあらゆる年代で自分自身のキャリアパスを構築する上で、最も大切なことです。自分自身のネットワークを作る際に一番良いのは、自分が子供のころ、あるいは学生時代に好きだったことを思い出して、やってみることです。私は学生時代に落語研究会に籍を置き、上方落語を演じておりました。今は落語をするわけではありませんが、スピーチのクラブに入って、英語のパブリックスピーキングを行っております。パブリックスピーキングのスキルはもちろん仕事に有効ですし、自分自身のネットワークの構築に非常に役立ちます。機楽会の会員の皆様、学生時代になにに情熱を燃やしていましたか？もう一度それに挑戦してみませんか？

なお、岐阜英語パブリックスピーキングのクラブは、岐阜高専の卒業生を中心に、大人のクラブ活動として、月一回例会（第三水曜夜）を開催しております。自身のネットワークを広げたい、プレゼンテーションスキルが必要、あるいは英語コミュニケーション能力をのばしたいと思う機楽会会員の皆様、是非顔を出してみてください。もちろん女性も大歓迎です。興味のある方は、私、中野までご連絡ください。



機械工学科の現状について

機械工学科 山田実

【インターンシップ】

夏休み期間中に第4学年の28名がインターンシップに参加しました。インターンシップ先は次のようになっています。

平成29年度インターンシップ先

鍋屋バイテック、住友重機械ギヤボックス、e.TEAM ANA、クラレプラスチック、資生堂、旭化成、カルビー、BBS ジャパン、東邦ガス、美濃工業、岐阜プラスチック工業、明智セラミックス、オープンセサミ・テクノロジー、三菱電機エンジニアリング稲沢製作所、豊田合成、長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学

鍋屋バイテックでははじめて中国の工場で実習を受け入れていただきました。多くの企業は岐阜県インターンシップ推進協議会の参加企業であったり、公募であったりしますが、学生の希望によりインターンシップを依頼し、快く引き受けていただいた企業もあります。

夏休みが終わった後、報告会を開きそれぞれの体験を発表してもらいました。1、2週間という短い間でしたが、得るものがあったようです。

【デザコン2017 in 清流の国ぎふ】

平成29年12月2、3日に岐阜駅前のじゅうろくプラザにて「全国高等専門学校デザインコンペティション」（通称デザコン）が開催されます。デザコンはロボコン・プロコンと並ぶ高専3大コンテストのひとつです。

機械工学科の学生が参加する部門にAMデザイン部門があります。AM（Additive Manufacturing）とは3次元プリンターに代表されるような材料を付加して製造をすることです。今回は、安心・安全アイテムの開発というテーマで3次元プリンターを使ったいろいろなアイデアの作品が展示されます。

全国の高専が参加するコンテストを岐阜で開催しますので、ぜひお越し下さい。入場自由で一般の方の見学も歓迎します。

詳しくは下記のホームページを見て下さい。

<http://デザコン.com/>

第14回 全国高等専門学校デザインコンペティション

デザコン 2017 in 清流の国ぎふ

2017年12月2日【土】—3日【日】 じゅうろくプラザ

メインテーマ：
デザインが天下を制する

美濃国は日本のほぼ中心に位置しています。古来より、四国からの道が交わる交通の要衝として知られており、京にも近く、都との往来も盛んな地でした。加えて木曾川・長良川・揖斐川により形成される濃尾平野は肥沃な水郷地帯で、農業生産力も高いことから、「美濃を制する者は天下を制す」といわれました。織田信長は1567年に美濃を制し、岐阜城に拠点を移してから「天下布武」を掲げて、京への道を開けていくことになります。デザコン2017が開催される年は、群雄割拠の戦国時代に、尾張から美濃を制し天下を覇した織田信長が美濃を治めるようになり丁度450年になります。全国からお越しいただく皆様を岐阜駅で黄金の信長像がお出迎えいたします。混沌とした先行きの見通し難い現代において、将来の日本・世界の社会像を創造していくデザインを競い合い、ブレイクスルーを引き起こす新たな天下＝新たな社会像を提案する機会になることを願いメインテーマにします。

構造デザイン部門	そののけそののけ王者が通る
空間デザイン部門	ナラティブを内在する場所
創造デザイン部門	地産地「興」（ちさんちきょう）
AMデザイン部門	安心・安全アイテム開発
フレデザコン部門	気になる“もの”

晩秋に岐阜で待つ



主催：一般社団法人 全国高等専門学校連合会 独立行政法人 国立高等専門学校機構
主管校：岐阜工業高等専門学校

問い合わせ先：岐阜工業高等専門学校 学生課 TEL:058-320-1211 FAX:058-320-1220

クラブ紹介 硬式野球部

機械工学科 片峯 英次

私が顧問をしています硬式野球部について簡単に紹介します。硬式野球部は、高野連に所属する低学年チーム(1～3 年生)と高専大会への出場が主な活動となる高学年チーム(4,5 年生)の2チームで構成されています。平成 29 年度において、1 年:10 名、2 年:8 名、3 年:11 名、4 年:7 名、5 年:12 名、女子マネージャ 1 年:2 名、3 年:2 名、5 年:1 名の合計 53 名が所属し、6名の教員が顧問として担当しております。低学年チームは甲子園出場を目指し、高学年チームは全国大会優勝を目指して活動を行っております。

この機楽会メルマガの読者は、昭和の時代に卒業された方が多いかと思われますので、平成時代における野球部の主な成績を簡単に紹介します。

高野連における低学年チームの主な成績としては、平成 7 年に夏の県大会ベスト 8、平成 14 年には春季岐阜地区大会で 1 位、県大会ベスト 8 入りを果たしております。また平成 18 年に 2 度目の春季県大会ベスト 8、平成 22 年には県工業大会で準優勝しております。さらに最近では、平成 28 年に県下選抜大会において優勝を成し遂げました。下記の写真はその時のものです。

一方、高学年チームにおいては、平成に入ってから全国高専大会に6度出場し、うち2回初戦を突破しましたが、残念ながらともに準決勝戦直前の試合で敗退しました。

機会等ありましたら、夏の大会等の際に球場に来ていただき、部員の活動に対して応援をお願いしたいと存じます。



平成28年10月 岐阜県高野連 県下選抜大会において優勝

若鮎会設立50周年

記念式典&懇親パーティーの報告

若鮎会設立50周年記念事業実行委員 太田 哲也

9月9日土曜日、午後1時より長良川国際会議場にて若鮎会設立50周年記念式典が開催されました。晴天に恵まれ、卒業生（若鮎会員）436名その他一般の人々が59名、**合計495名**の参加で盛大に行われました。

（参考：M91名・E105名・C150名・A64名・D26名）



若鮎会会長 & 森基要先生

織田信長岐阜城入城450年を記念して出陣太鼓でオープニング（奏者：36E 細野洋介）後、5分間現在の学校風景を映し出し、若鮎会会長（1A 古川一吉）、岐阜高専校長、豊橋技科大副学長の挨拶の後、ご出席の恩師に感謝状と記念品を贈呈しました。（記念品はペンケース）恩師を代表して森基要先生のご挨拶がありました。



学校創立から在籍され、90歳を超える先生は足腰もしゃんとして冗談を交えながら元気にご挨拶をされました。

（出席の先生：小崎正光・越川純男・橋浦正史・川本正則・水野耕嗣
北川恵一・久網正和・臼井敏男・山村基久・鈴木孝男）



感謝状を受け取る橋浦正史先生

式典終了後、記念講演に移り卒業生で土木工学科8期生の所靖子さんが「トンネルに風穴はどのように開いたか」の演題で、女性が猛者と一緒にトンネル工事に携わるのがいかに大変だったかお話されました。その後、パネルディスカッションに移りました。

（パネラー：1M 井坂和男・7M 村手雅子・13M 恩田多賀雄・8C 所靖子・3A 宇佐美晃三・

1D 菅原健・37E 武井祥平・37E 豊吉隆一郎・49E 加納英樹・49E 堀江弘将）

1期生から専攻科の学生（49期生）まで50年の歴史を語るメンバーで、学生時代の事や高専で学んで良かった事など、思い出や今後入学してくる人へのメッセージなどを語ってもらいました。



記念講演：8C 所靖子氏 岐阜新聞



パネルディスカッション風景



井坂さんと村手さん



恩田さん

当日のDVDが完成しました。75分に編集しています。オープニングの映像は5分15秒です。

懇親祝賀パーティーの報告 & 参加者データ

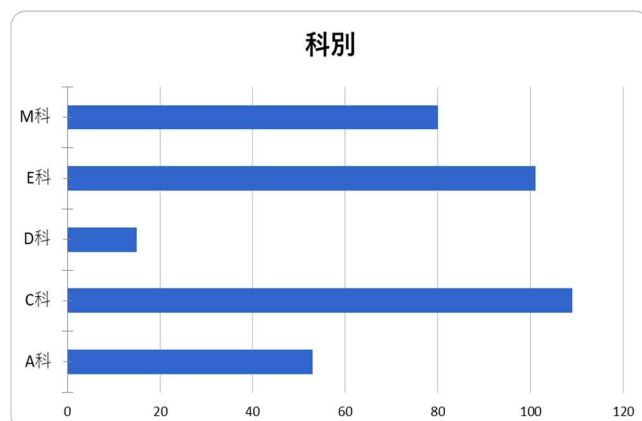
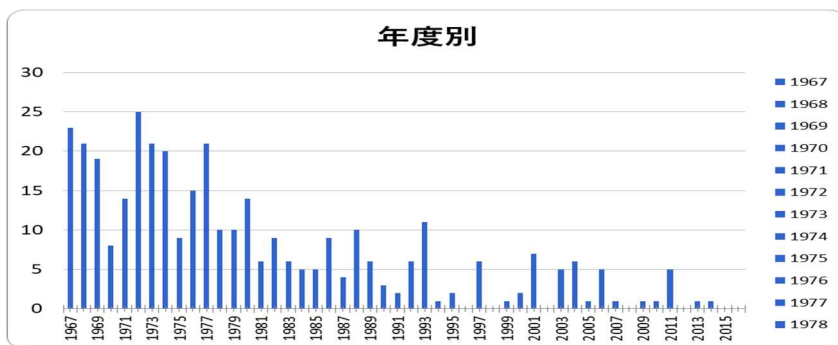
岐阜都ホテルでのパーティーは入場受付が混雑しましたが、予定通り3時半に開始しました。参加者は444名(内訳:M=86・E=109

C=130・A=70・D=18・本科学生=19・教職員=8・一般=4)

古川会長・伊藤学校長・後藤教育後援会長の挨拶の後、サプライズゲストで野田聖子総務大臣が登場し、祝辞をいただきました。岐阜高専創設時に故野田卯一代議士が「岐阜に早期に高専を！」とご尽力された事を報告されました。応援団の3代目団長の5C 河島和博氏の応援エールに送られ退席。乾杯の後、にぎやかな懇談会になりました。戦国ぎふ姫隊のパフォーマンスもありました。

中締めで応援団による校歌斉唱。ブラスバンド部の有志も駆けつけて懐かしい大合唱。エール交換の後、今回主催者の若鮎会役員の紹介並びに実行員会の紹介があり、企画実行のねぎらいの言葉がありました。

卒業生が400名以上も参加されたのは喜ばしいことだと思います。この50周年をきっかけに各科の同窓会、また機集会の活動が活発になることが期待されます。



学年合同同窓会を開催するにあたって

31 期機械工学科卒業生 堀口英樹

来る 11 月 25 日に私共 31 期機械工学科同窓生を始め、同学年の 31 期電気工学科、環境都市工学科、26 期建築学科そして 6 期電子制御工学科の計 5 学科合同での同窓会を開催する運びとなりました。

思えば今年年初の同級生との酒席にて、今年我々世代が 40 歳を迎えることが話題となり、「皆元気しているだろうか？変わってしまった奴もいるんじゃないだろうか？」といった何気ない会話からふと、折角だから同窓会をやってみては！どうせやるなら学年全体にしようということで盛り上がりこの企画が生まれました。当然のように言ってしまった者が指揮を執らねばならずが今の世の風潮か、私が実行委員長という形で各学科の地元に残っている同窓生で協力してくれる方を探し、実行委員を依頼することから始まりました。まずは 4 月末 GW に第一回目の実行委員会を招集いたしました。集まったのは 7 名、私も手探りなりにレジュメ等準備し極力皆さんの負担にならないよう進めていこうと努めました。11 月開催に照準を合わせ、まずは事前告知として仮案内に出欠アンケートを付け発送することとなりました。これには若鮎会で管理されている名簿が、私を含めほぼ卒業時のままで変更がされていなかった為、同窓生が実家へ帰省しそうなお盆を狙い発送しました。また最近では FaceBook に加え LINE にての呼びかけも容易で、全体への連絡が行き届いたと思っております。この事前告知の結果 7 月末の実行委員会の時には既に 120 名程、学年全体で過半数の出席予定をいただいております我々実行委員としては大変手応を感じておりました。会場に付きましては出席予定人数が把握できたことで選別しやすく、喜ばしいことに先の岐阜高専創立 50 周年記念祝賀会と同じ都ホテルの部屋にて決められたことに大変縁を感じます。

私のような学生時代成績不良な者が今回の同窓会実行委員長、またこのような記事を書かせて頂く機会を頂戴しました事に皆様よりのご縁を感じると共にここに感謝申し上げます。私は高専卒業後、機械では無く別の道へ進み、現在は岐阜市内で不動産業を営んでおります。今回の活動を通し、同窓生初め高専に係る方々が気軽に寄って談笑していただけるような、そんな店作りを心がけていきたいと思っております。是非お立ち寄りください。



株式会社ワン・ライフ
岐阜市鏡島西二丁目 5 番 17 号
☎ 0120-84-0025

11 月 25 日の合同同窓会をとどこおりなく開催できることを心より願って締めとさせていただきます。ありがとうございました。そして応援よろしく願いいたします。

記

日 時：平成29年 11月 25日(土)
17:30 受付開始 18:30 開演 (21:00 閉会)
場 所：岐阜都ホテル
岐阜市長良福光町 2695-2 (長良川河畔)
TEL 058-295-3100
会 費：男性 10,000円 女性 7,000円 (受付精算)

なお、お手数をおかけいたしますが、準備の都合上、
11月5日までに同封の葉書にてご出欠をお知らせください。

企業トップとして活躍する卒業生

岐阜精機工業（株） 代表取締役社長 飯沼義徳（7期生）

岐阜高専も創立 50 周年を迎え、多方面で経営者として活躍される卒業生が多数おられます。今回は、岐阜地域の金型設計製作のトップメーカーである岐阜精機工業（株）社長の飯沼さんが会社の現況を寄稿してくれましたので、編集委員がお聞きした苦労話と併せてご紹介します。

【略歴】

1974年 3月 岐阜高専 機械工学科卒業
1974年 4月 三井金属鉱業（株）入社（岐阜精機工業（株）へ出向、その後転籍）
2011年 9月 昭和精機工業（株）（岐阜精機グループ会社）代表取締役社長就任
2012年 4月 岐阜精機工業（株）代表取締役社長就任（現在に至る）

【会社紹介と社内経歴】

岐阜精機工業は、金型設計製作の専門メーカーとして自動車部品向けの大型射出金型（バンパー等）やダイカスト金型（シリンダーブロック等）、および低圧鋳造金型（シリンダーヘッド等）を得意としています。お陰様で今年創立60周年を迎えました。

私は入社後、テレビブラウン管用金型製造部門（今は液晶に替わり事業撤退）に配属となり、当時としては最新鋭のマシニングセンターの導入（加工方案の作成、治具設計、加工プログラム開発）から立上げに携わりました。

そして26歳の時からテレビブラウン管用金型の海外プラント輸出業務3件（ソ連、東ドイツ、中国向）に、契約交渉から工場検収まで約10年間かかりました。特に東ドイツ（社会主義国家。現在は統一されて存在しません）には、約1年間滞在し、工場立上げで大変苦労をしました。この経験は非常に大きな自信になり、その後の業務に生かすことができました。

その後、鋳造金型（ダイカスト金型、低圧鋳造金型）に携わり、部門長として自動車メーカー向けの金型づくりに携わり、5年前から社長という重責にあります。

当社が設計製作する金型は、重量20トン以上の大型を得意としています。ほとんどの自動車メーカー様と取引があり、世界中に輸出されています。また子会社として、国内には徳島県に昭和精機工業があり、自動車のヘッドランプの金型を得意としています。海外にはタイにギフセイキ・タイランドがあり、射出金型、ダイカスト金型を設計製作しています。どちらも金型設計製作の専門メーカーです。グループ3社で、売上高：約80億円、従業員：約430名の企業です。



創立 60 周年記念祝賀会で挨拶

【在校生および卒業生の皆様へ】

当社には、岐阜高専卒業生は私を含め7名在籍しています。11月に中途入社で1名の採用が内定しており8名になります。地元の企業で多方面の仕事したい岐阜高専生、そしてUターンしたい卒業生のみなさん！一度当社のホームページ（<http://www.gifuseiki.co.jp/>）をご覧ください。少しでも興味ありましたら、訪問してください。心より歓迎します。

ー編集委員が紹介したい飯沼さんの若手時代の体験談ー

飯沼さんに寄稿を依頼後、内容をよりリアルにするために会社を訪問させていただきました。地域トップの金型メーカーだけあって超がつく大型機械が何台も整然と並んで自動運転されていました。

さて、お話を伺っている中で、やはり苦勞が伝わってきたのは新婚間もないのに単身赴任された東ドイツでの体験です。当時（1979年）は東西冷戦が終結しておらず、社会主義国家の東ドイツでも、さらにポーランドとの国境付近とのことでした。異国生活で一番困ったのは食べ物。とにかく口に合わない、他に何も無いという状況。メイン料理はじゃがいも、キャベツの酢漬け、ゴムみたいな肉、豚足。想像しただけで食欲が沸きません。このため週末はベルリンの壁を越え、西ベルリンへ美味しい食べ物を求めて毎週通ったとのこと。西ベルリンは自由主義体制なので空気が違う。東ドイツの空はねずみ色。西ドイツの空は青かった。そんな気分させるそうです。仕事上でも国家体制が異なると考え方も違う。共産国家は仕事をしてもしなくても給料が同じなので我々が1時間もかからない仕事を1日くらいかけてやる。昔サボタージュという言葉があったのを思い出しましたが、まさにそうなのでしょう。こうした状況下でも現地人とは仲良くなりプラント立ち上げを完遂されたとか。これには偶然性もあったようで、実は東ドイツやポーランドは社会主義国家でありながら現地人はソ連（現ロシア）が嫌いなのだそうです。そのロシアを世界で唯一やぶったのが日露戦争で勝利した日本だということで日本人はすごいと尊敬される。こうした背景が仕事を進める上でプラスになったようです。

このように凡人には経験することがない苦勞を重ねられた飯沼さんですが、遊びも非凡でした。ヨーロッパを周遊したのはもちろん、年末年始の休暇は帰国せず、スイスのマッターホルンでのスキー三昧だったそうです。

これらのようなバイタリティーを今もひしひしとを感じる飯沼さんでした。



会社玄関にて

【岐阜精機工業(株)の沿革】

- 1957年 会社設立（三井金属鉱業(株)全額出資）
- 2001年 (株)アークが三井金属より全株式を取得
- 2003年 GIFU SEIKI (THAILAND) 設立（60%出資）
- 2012年 昭和精機工業(株)と GIFU SEIKI (THAILAND) を100%子会社化
- 2013年 豊田通商の子会社となる（豊田通商(株)（90%出資）、トヨタ自動車（10%出資））

若鮎会 50 周年記念事業公開講座のお知らせ

先のメールマガジン vol.6 夏号で紹介しましたが、若鮎会 50 周年記念事業として公開講座を開催します。場所は J R 岐阜駅前の「岐阜スカイウィング 37」東棟 4 F にあります、岐阜大学サテライトキャンパスです。(入場無料)

この公開講座は、さまざまな分野で活躍されている岐阜高専 O B が、現在注力する活動を紹介すると共に、永年の経験談や人生観、これからの目標など幅広くお話しされるものです。機楽会としてはできるだけ多くの方々に参加していただきたいと願っています。

初回講座は 10/28 (土曜日、13~15 時)、「水族館職員は見た!」。講師の真田誠至さんは土木工学科(現:環境都市工学科)26 期生で、現在は岐阜県各務原市にある世界淡水魚水族館「アクア・トトぎふ」で活躍されており、工学の視点から見た川の環境と生き物の住み家について話されます。

第2回講座(11/18(土)、13~15 時)は「厳しい環境変化を生き抜く強い人づくり」。講師の花村和男さんは機械工学科1 期生で、アイシン精機にて一貫して品質管理活動に従事され、SQC を推進されてきました。ものづくりにおける品質管理の重要性を再認識できるテーマです。

続く第3回講座(1/13(土)、13~15 時)は「日本版インダストリー4.0 実証実験の紹介と適用可能性考察」。電気工学科(現:電気情報工学科)21 期生の西村栄昭さんからインダストリー4.0 や I o T についての最新情報を聴くことができます。ものづくりに携わっている方にとってはとても興味深いテーマです。

1 月以降も様々なジャンルの講座を開催していきます。(いずれも 13~15 時)

2/24 (土) 聞こえなくても大丈夫

講師: 玉田雅己さん(電気工学科(現:電気情報工学科)14 期生)

3/24 (土) ものづくりの高度化に向けてのオープン C A E の可能性

講師: 柴田良一さん(岐阜高専建築学科長)

各公開講座の詳細内容、公開講座への申し込み方法などについては P 11 の公開講座のチラシをご覧ください。

最後に、この公開講座は若鮎会が 50 周年事業を発端に今後も継続していくイベントですが、機楽会としても岐阜高専の同窓会活動を盛り上げていく為に携わっていきます。時代の挑戦者として歩んできた皆様の経験談や想いを公開講座の場を利用して、話していただける方を募集しています。講座の内容は問いません。多くの方々の参加をお待ちしています。

50th Anniversary 岐阜工業高等専門学校同窓会 公開講座

伝えたい！時代の挑戦者たちのメッセージ

入場
admission free
無料

JR 岐阜駅前 岐阜大学 サテライトキャンパス 多目的講義室

岐阜市吉野町 6 丁目 31 番地 岐阜スカイウイング 37 東棟 4 階

アクセス http://www1.gifu-u.ac.jp/~gifu_sc/src/access.html

対象 どなたでもご参加いただけます（事前予約にてお席を確保できます）

主催：岐阜工業高等専門学校同窓会「若鮎会」
協賛：岐阜工業高等専門学校

2017
10/28
(Sat.)

水族館職員は見た！ ～川環境と生き物のすみ家～

13:00 ▶ 15:00 真田 誠至
世界淡水魚園水族館 アクア・トト ぎふ 展示飼育部展示飼育チーム

岐阜高専土木工学科（現在の環境都市工学科）出身の講演者が、工学の視点から見た、川環境と生き物のすみ家についてお話しします。
水辺には多くの生き物が生息しており、なかでも岐阜県は清流・長良川をはじめ、豊かな自然に育まれています。しかし、河川にすむ生き物やそのすみ場所は、水面下等で繰り広げられているため、直接見ることが難しいことが指摘されています。また、産卵行動や洪水などは、観察のタイミングを合わせる事が難しいこともあげられます。
川環境について人々に理解を促すためには、捉えにくい現象を分かりやすく見せることがポイントになります。その手段の一つとして、展示があげられます。
水族館では、生き物のすみ家を再現して、現地の雰囲気伝える生態展示が行なわれています。また、映像や展示物を活用し、河川で見られる現象や生き物の行動を分かりやすく伝える試みもなされています。
河川特有の捉えにくい現象は、「時間」「空間」「水の性質」の視点から整理すると分かりやすくなります。まず、時間については、洪水や樹林化などの現象があります。ついで、空間については、Frissell（フリッセル）の河川の階層構造として、流域からマイクロバピタットに至る空間スケールの視点が重要になります。そして、水の性質については、水質など見た目だけでは分かりにくい現象が存在します。フィールドで河川を観察する時は、縦断的に見ると瀬や淵が、横断的に見ると流心や水際、氾濫原などのすみ家が存在しています。
近年の水族館や水辺のミュージアムの展示や取り組みをお話することで、これまでとは違った新たな視点で川環境を見ることができ、生き物のすみ家について理解を深めて頂ければ幸いです。



経歴

平成5年 岐阜工業高等専門学校 土木工学科
（現：環境都市工学科）卒業 26期生
平成9年 岐阜工業高等専門学校専攻科建設工学専攻 修了
平成11年 豊橋技術科学大学
大学院工学研究科建設工学専攻 修了
平成15年 岐阜大学大学院工学研究科生産開発
システム工学専攻 単位取得退学
平成16年 博士（工学） 学位授与

職歴

平成5年 建設省土木研究所環境部環境計画研究室 勤務
平成15年 独立行政法人
土木研究所自然共生研究センター 勤務
平成22年 株式会社江ノ島マリンコーポレーション
（世界淡水魚園水族館 アクア・トト ぎふ）勤務

11/18
(Sat.)

「中核人材育成塾」開講 10 周年記念特別講座 厳しい環境変化を生き抜く強い人づくり ～問題を解決するための武器を持とう！～

13:00 ▶ 15:00 花村 和男
SQC コンサルタント

私は、トヨタ系のできたばかりの自動車部品会社（アイシン精機㈱）に入社して、ブレーキ部品などの非常に要求の厳しい部品の製造業を担当してきました。当時の会社では、品質問題を抱えており、会社方針の経営理念では「品質至上」を基本に、品質管理活動が活発で、会社がデミング賞や日本品質管理賞、あるいは PM 賞や PM 優秀賞に挑戦していく中で、その推進業務に携わりました。ここで、専門技術を進化させると同時に、これを正しく評価することの必要性を叩き込まれました。また、技術の中でも多くの管理技術を習得しました。
そして、1990 年頃、私も 40 歳になり、一連の会社の知識を得た頃ですが、バブルがはじけ、国際摩擦が起こり、経営環境が変わろうとしている時でした。この時、個人的な健康問題（糖尿病やうつ病）も発症し、絶望の淵に立ちました。そんな時、ある著名の方の講演を聞きに行った際、「皆さんは、無事定年を迎えてと思っていますが、実は 60 歳からが自分のやりたいことをやるんですよ」という激励を受けました。
これを契機に、考え方を变えて、今まで培った管理技術（手法・技法その実践例）を会社に活かさないかを考えました。そして行き着いた結論が、品質管理技法を有効活用した効率的・効果的な問題解決法を、これからの方々に伝えようということでした。そして、幸いにも当時の社長からも後押しされ、現在も SQC コンサルタントとして活動しています。
問題解決をするのは、周りに追いつき・追い越すために実践しますが、無防備では無理で、問題解決に必要な武器・ツールを携えることが不可欠です。本日は、品質管理技法の全容と、最近若い方々にお薦めの「応答曲面法」「品質工学」「故障予測」なども紹介します。



経歴

昭和43年 岐阜工業高等専門学校 機械工学科 卒業 1期生

職歴

昭和43年 アイシン精機株式会社入社
以来刈谷工場で品質管理業務
昭和63年 生産技術部で生産準備・生産企画業務
平成5年 試作工場で品質管理・生産管理・工場運営業務
平成5年 TQM-PM推進室でTQMの基軸を高める
全社SQC活動の推進の業務（部長格）
平成20年 退職
平成20年 SQCコンサルタントとして活動

代表的な受賞歴

平成10年 日本科学技術連盟発行の「QC賞」受賞

代表的な著書

「サイエンスSQC」（日本規格協会：2000年発行を分担執筆）

お問合わせ

岐阜工業高等専門学校同窓会

若鮎会 WAKAAYUKAI 058-323-8752

〒501-0495 岐阜県本巣市上真桑2236番2

WEBお申込み

<https://www.wakaayu.org/openlecture/>

岐阜高専 若鮎会

検索

公開講座 申込み書（FAX用）

[FAX] 058-322-6571

フリガナ お申込者氏名	性別 ・男 ・女	若鮎会員 (専攻科含む)	・一般 ○で囲んで下さい	・学生
フリガナ 企業団体名	所属・役職			
TEL	FAX	E-mail		
申し込み日 総申込み人数	☐ 10/28 (名)	☐ 11/18 (名)	☐ 1/13 (名)	☐ 2/24 (名)
	☐ 3/24 (名)			

2018

1/13
(Sat.)

日本版インダストリー 4.0 実証実験の紹介と適用可能性考察 ～ 10 万円で始められる現場の IoT ～

13:00 ▶ 15:00

西村 栄昭 ブラザー工業(株) 製造センター 生産革新部 グループマネジャー
(一社) インダストリアルバリューチェーン イニシアティブ 副代表幹事

2015 年頃から IoT/ 第 4 次産業革命などの言葉が新聞雑誌などマスメディアを賑わすようになっている。また経済産業省のものづくり白書でも、企業で IoT を活用し効果を出している先進企業も登場する状況である。IoT も単なるキャッチフレーズから現実のものになってきていると認識している。

海外に目を向ければ米国では IIC (インターネット インダストリアル コンソーシアム)、独国では (インダストリア 4.0) 等の団体が、まさしく国境を超えて活発に活動をし、ものづくりの IT 化を推進している状況だ。

日本国内ではロボット革命イニシアティブ (RII)、IoT 推進ラボ、インダストリアルバリューチェーンイニシアティブ (IVI) などの活動団体が 2015 年に立ち上がり、産学官が連携を取りながら日本の強みでもある“ものづくり”基盤を強化するべく活動している。

本講演はこのような中、講演者の属する IVI を中心に、実際に行われている IoT 実証事例、活動を紹介し考察することで、日夜ものづくりを実践されている皆様の気づきになり、明日からの活動指針になればと考えている。その中で IoT スタートアップとして有効な 10 万円の IoT キットの有効性も紹介する。



経歴

昭和63年 岐阜工業高等専門学校 電気工学科
(現：電気情報工学科) 卒業 21期生

職歴

昭和63年 ブラザー工業株式会社入社
中国、イギリス、ブラジルなどでファクス、
プリンタ生産工場の立ち上げを担当
平成15年 マレーシア工場 技術部長 (平成21まで)
平成26年 ブラザー工業 製造部 グループマネジャー
平成27年 生産革新部異動 ITを活用した生産性向上などに取組
平成27年 (一社)インダストリアル・バリューチェーン・イニシアティブ参加
平成28年 (一社)インダストリアル・バリューチェーン・イニシアティブ幹事
平成29年 (一社)インダストリアル・バリューチェーン・イニシアティブ
副代表幹事
平成29年 ブラザー工業 製造センター 生産革新部 グループマネジャー

2/24
(Sat.)

聞こえなくても大丈夫 ～日本初！日本手話で学べるろう学校 「明晴学園」設立と高校での情報保障～

13:00 ▶ 15:00

玉田 雅己
NPO 法人バイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター 代表理事

日本のろう学校では、昭和 8 年から話者の口形を読み取り音声による会話ができるように指導する「聴覚口話法」による教育が行われています。次男が「聞こえない」とわかって、聴者に近づける「口話」による教育がろう児のコミュニケーションを阻んでいると実感し、新たな教育の選択肢として、構造改革特区制度を活用して「日本手話と日本語での読み書きの“バイリンガル”教育」を行う学校法人「明晴学園」を、多くの方々の協力を得て仲間とともに開校させました。その実現までのプロセスと明晴学園の様子をお話しします。

卒業後の進路の選択肢は一般高校が考えられますが、現在、授業内容の情報保障制度はなく「遠隔パソコン文字通訳システム」を実際に導入しました。教師の声を複数の文字通訳者にマイクを通じて送り、連係入力することで生徒のスマートフォンに授業内容を正しく、早く、わかりやすい文字情報として表示させるものです。約 4300 時限の実績を積み制度化に向けた活動と状況をお話しします。

次男は明晴学園から都立高校に進み、野球部のレギュラーとして強豪校と戦い「聞こえなくても、できる」を証明し続けています。次男のフランスへの一人旅とろう者のコミュニケーションの力を描いた短編ドキュメント映画「17 歳の夏」を上映し、手話で育った次男の様子を紹介しします。



経歴

昭和56年 岐阜工業高等専門学校 電気工学科
(現：電気情報工学科) 卒業 14期生
平成26年 放送大学大学院 文化科学研究科
社会経営科学プログラム 修士(学術)

職歴

昭和56年 日本電信電話公社入社 (現：株式会社NTTデータ)
平成20年 構造改革特区研究開発学校
私立学校法人明晴学園 開校 設立メンバー
平成26年 国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST)
社会技術研究開発センター (RISTEX)
研究開発成果実装支援プログラム 平成26年度 採択
「聴覚障害高校生への遠隔パソコン文字通訳での授業支援」

3/24
(Sat.)

ものづくりの高度化に向けてのオープン CAE の可能性 ～草の根的なものづくりの技術開発を高専が担うこと～

13:00 ▶ 15:00

柴田 良一
岐阜工業高等専門学校 建築学科長

ものづくりの高度化に向けて、産業界では様々な努力が続けられています。この中でコンピュータによる設計支援技術である CAE (シーエーイー) を用いて、製品機能の高度化や設計期間の短縮化が注目されていますが、導入経費や活用技術の問題から中小企業では導入が難しいのが現状です。

そこで注目されているのが「オープン CAE」です。これはオープンソースで公開された様々な解析ツールを組合せた CAE システムで、高価な商用ソフトに迫る解析機能を持ちながら無償で自由に利用できることが特長です。柴田らは 10 年前からオープン CAE の研究開発や普及活動に企業と連携して取り組んできました。

本講演では、柴田らが取り組んできたオープン CAE の現状と未来について、製品設計を効率化する現在の先端的で高度な解析機能のデモ提示、新たなクラウドを用いた今後の効率的な解析環境の実現、などご紹介して、オープン CAE がものづくりの高度化をどのように支援できるかをご紹介します。

また最後に高専卒業生で高専教員と言う立場において、自分が学生時代からどのような経験を積む事によって、企業の実践的な要望に応えながら草の根的な技術開発を担う事になったのかを懐古的にご紹介するなかで、様々な技術開発の成果を高専のものづくり支援の中に位置付けたいと思います。



経歴

昭和62年 豊田工業高等専門学校 建築学科 卒業
平成元年 豊橋技術科学大学 建設工学課程 卒業
平成6年 豊橋技術科学大学大学院 博士後期課程 修了

職歴

平成6年 国立岐阜工業高等専門学校 建築学科 助手
平成23年 国立岐阜工業高等専門学校 建築学科 教授

若鮎会設立50周年記念式典&懇親パーティーのDVD 完成！

式典当日、2台のカメラでプロが撮影したDVDが出来ました。70分ほどに編集しています。受付で希望の有無を調査し、少量ではありますが用意できましたので希望者に販売します。



販売価格は1枚1,000円

購入方法は近日中に若鮎会HPに掲載されます。

内容:オープニング映像
開会前の準備風景
記念式典
開式
主催者挨拶
来賓祝辞
来賓紹介
恩師紹介
感謝状・記念品の贈呈
講演
パネルディスカッション
懇親祝賀パーティー

編集後記

今年は大型の台風が日本のみならず世界中で発生しています。災害に備え準備をしている人も多いでしょう。『備えあれば患いなし』心構えもしっかりと準備しておきたいですね。

7号は行事の報告や案内が多くなりましたが、これからも皆さんからの近況報告をもっと掲載していきたいと思いますので投稿をお願いします。

編集委員

6M 太田哲也

50周年記念式典が終わってホッとしています。準備期間が長かったですね。イベント好きな私は楽しんで参加することが出来ました。今回は反省もいっぱいありましたが、後輩や先輩のつながりもできて輪が広がりました。

8M 犬飼宏好

メルマガ編集会議で、若鮎会50周年記念式典に続く大イベントは機巢会40周年記念式典、と決定しました。無論冗談ですが、こんな話をワイワイガヤガヤしながら進行する編集会議です。

15M 中尾賢治

今回は原稿を作成するのに少しバタバタしてしまい関係各位にご迷惑をお掛けしました。ところで、あっという間に10月が終わろうとしているのに仕事が進んでいない自分に焦ってます。アルバイトを雇うかと考えるこのごろです。

24M 山田 実

50周年記念式典の夜。同期のみで同窓会を久しぶりに開きました。学生の時の写真を持って行き、写っている1人ひとりの名前を思い出し盛り上がりました。

33M 伊藤友裕

目が回るくらい忙しい今日この頃、人生にはある程度余裕が必要と感じる毎日です。若鮎会記念行事の後クラス同窓会実施しましたが、みんな相変わらず元気でした。これを機に継続していきたいと思います。

発行日／2017年10月25日

責任者／中野廣幸

発行／岐阜工業高等専門学校機械工学科同窓会「機巢会」編集室

〒501-0495 岐阜県本巣市上真桑2236番地2

TEL 058-320-1343

FAX 058-320-1349

<http://gifu-nct.com/>